

10月米小売はハリケーンの影響で減少も基調は悪くない

10月の米小売はハリケーン・サンディの影響で、耐久財関連を中心に減少。しかし、雇用情勢の改善や高水準のマインドを踏まえれば、11月には増勢に復する見込み。

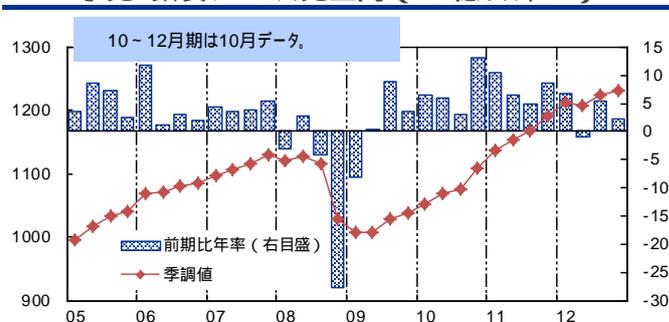
米国の小売・飲食サービス売上高（以下、小売売上高）は10月に前月比 0.3%と小幅ながら4ヶ月ぶりに減少へ転じた。なお、8月以降のデータは遡及訂正されており、8月は1.2%から1.0%へ下方修正、逆に9月は1.1%から1.3%へ上方修正である。7~9月期では前期比年率5.5%から5.3%への下方修正となり、若干の下方修正となっている。

10月の小売売上高の減少は、10月末に米国東部を襲ったハリケーン・サンディの影響と考えられる。ハリケーン・サンディの襲来を控えて生活必需品などに買い溜めの動き（食品・飲料が前月比0.8%、ガソリンスタンド売上高は1.4%）は生じたが、寧ろ耐久財の購入見送りと店舗閉鎖による悪影響が勝ったと考えられる。実際、自動車・同部品が前月比1.5%（9月1.7%）、家具は0.6%（9月0.2%）、電気製品も1.0%（9月1.6%）と耐久財関連を中心に販売はいずれも明確な減少である。なお、電気製品については、iPhone5販売の効果で9月に続き増加する可能性が高いと考えていたが、ハリケーン・サンディの悪影響が勝った模様である。

ヘッドライン以外の動向を見ると、「除く自動車」は、10月に前月比0.0%（9月1.2%）、「コア売上高（除く自動車、建設資材、ガソリンスタンド）」は0.1%（9月0.8%）とハリケーン・サンディの影響が最も大きい自動車販売が含まれないため、減少幅は総じて小さい。なお、10月小売売上高の水準を7~9月期と比較すると¹、ヘッドラインが年率換算で3.5%（7~9月期前期比年率5.3%）、除く自動車は4.1%（同4.8%）、コアは1.6%（同4.0%）と、いずれも伸びが鈍化しているものの増勢が途切れた訳ではない。

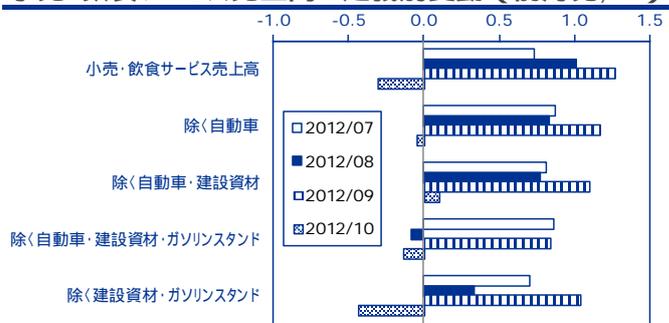
ハリケーン・サンディの影響は11月に反転が見込まれる。住宅の補修や自動車など傷んだ耐久財の補修もしくは買替が生じるためである。加えて、10月の雇用統計が示したように、賃金情勢には不安が残るものの雇用情勢は回復の動きを強めており、また11月に2007年7月の水準を回復したミシガン大消費者マインド指数が示すように消費者マインドも持ち直している。そのため、個人消費の拡大基調は維持される可能性が高く、11月の小売売上高は再び増加に向かうと高いと判断される。

小売・飲食サービス売上高（10億ドル、%）



(出所)CEIC

小売・飲食サービス売上高の定義別変動（前月比、%）



(出所)CEIC

¹ 10月水準を10~12月期に読み替えて、年率の伸びを計算。

ハリケーン・サンディは10月末を中心に、米国経済に資本ストックの毀損（インフラや住宅、店舗などの破壊）とNYを中心とした経済活動の停止というかたちで被害を及ぼした。資本ストックの毀損は、米国民の生活には甚大な影響を及ぼしたが、フローの動きを示すGDPには大きく影響しない²。寧ろ、復興投資というかたちで11月から来年1～3月期を中心にプラスの影響が顕在化すると考えられる。一方、経済活動の停止は、直接に、フローの経済活動を阻害し、10～12月期のGDPを押し下げる。押し下げ具合は、今後公表される10～11月の経済指標により検証する必要があるが、前者と後者をトータルした場合、10～12月期の経済成長はハリケーン・サンディにより幾分押し下げられたと見込まれる。

² もちろん、資本ストックの毀損は経済活動を阻害するため、その悪影響はフローに及ぶ。しかし、後者ではそうした悪影響は後者の経済活動の停止に含めて、議論している。